座長

大林　剛郎　おおばやし　たけお

株式会社大林組　代表取締役会長

1954年 東京都生まれ
1977年 慶應義塾大学経済学部卒業。株式会社大林組入社
1980年 スタンフォード大学工学部大学院留学、修士取得
1983年 株式会社大林組取締役
2009年 株式会社大林組代表取締役会長
＜主な委員等＞
〇美術関係 ・公益財団法人大林財団理事長 ・森美術館理事・原美術館評議員・公益財団法人石川文化振興財団評議員・一般財団法人川村文化芸術振興財団評議員・パリ・ポンピドゥー・センター日本友の会代表・英国テート美術館インターナショナル・カウンシル・メンバー・ニューヨーク近代美術館インターナショナル・カウンシル・メンバー
〇その他 ・関西経済連合会理事・日本経済団体連合会外交委員会委員長
＜著作＞ 2019年『都市は文化(アート)でよみがえる』(集英社)
＜表彰＞ 2015年レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ受章
令和3年度文化庁長官表彰

副座長

伊藤　邦雄　いとう　くにお

一橋大学CFO教育研究センター長
一橋大学名誉教授

一橋大学商学部卒業。一橋大学教授、同大学院商学研究科長・商学部長、一橋大学副学長を歴任。一橋大学名誉教授。中央大学大学院戦略経営研究科フェロー。2015年より、一橋大学CFO教育研究センター長。

経済産業省「持続的成長への競争力とインセンティブ」（「伊藤レポート」）座長、同「コーポレート・ガバナンス・システム研究会」委員、同「持続的成長のための長期投資（ESG・無形資産投資）研究会」（「伊藤レポート2.0」）座長、同「サステナブルな企業価値創造に向けた対話の実質化検討会」座長、同「トランジション・ファイナンス環境整備検討会」座長、同「産業構造審議会経済政策・産業政策新機軸部会」委員、同「企業価値の向上と人的資本の研究会」（「人材版伊藤レポート」）、「人的資本経営の実現に向けた検討会」（「人材版伊藤レポート2.0」））座長。、

経済産業省・東京証券取引所「DX銘柄」選定委員長、「TCFD（気候変動財務情報開示タスクフォース）コンソーシアム」会長

秋元　雄史　あきもと　ゆうじ

練馬区立美術館　館長
東京藝術大学名誉教授

練馬区立美術館館長、練馬区文化振興協会常務理事、東京藝術大学名誉教授、金沢21世紀美術館特任館長、国立台南芸術大学栄誉教授、美術評論家。1955年生。東京藝術大学美術学部卒業。1991年からベネッセアートサイト直島のアートプロジェクトに携わる。2004年より地中美術館館長、ベネッセアートサイト直島・アーティスティックディレクター。2007年4月～2016年金沢21世紀美術館館長。2015年4月～2021年東京藝術大学大学美術館館長・教授。2017年4月～練馬区立美術館館長。主なプロジェクト、展覧会は、「地中美術館」、「直島スタンダードⅠ、Ⅱ」（直島・香川）、「金沢・世界工芸トリエンナーレ」（金沢、台湾）、「工芸未来派」（金沢、ニューヨーク）、「ジャポニズム2018『井上有一』展」（パリ、アルビ・フランス）、「あるがままのアート　人知れず表現し続ける者たち」展（東京・日本）、「井上有一展」（北京、上海・中国）等。2021年から北陸三県を跨ぐ工芸祭『GO FOR KOGEI』をディレクション。著書には『武器になる知的教養　西洋美術鑑賞』、大和書店、『アート思考』プレジデント社、『直島誕生』ディスカバリー２１など

阿部　一直　あべ　かずなお

東京工芸大学　芸術学部　教授
メディアアートキュレータ
プロデューサ

1960年長野県生まれ。東京藝術大学美術学部藝術学科美学専攻卒。
1990～2001年キヤノン株式会社「アートラボ」: プロジェクト専任キュレーター。
2003年～2017年山口情報芸術センター: アーティスティックディレクター、副館長。
2019年～ 東京工芸大学芸術学部教授。

2006年ベルリン「transmediale award 06」国際審査員。2009年台北「第4回デジタルアートフェスティヴァル台北／デジタルアートアワーズ」国際審査員、2014～16年「文化庁芸術選奨」メディア芸術部門選考審査員、2017～2019年「文化庁メディア芸術祭」アート部門審査員、2017～2019年アーツカウンシル東京（東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団）東京文化プログラム助成審査員。2018年韓国国立Asian Cultural Center「第３回ACT Festival」ゲストディレクター「Otherly Space/Knowledge」展キュレーション（カンジュ市）、2019年evala＋鈴木昭男サウンドアートインスタレーション「聴象発景」展キュレーション（丸亀市・中津万象園）。

井上　智治　いのうえ　ともはる

一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン　代表理事

2015年4月　一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン（CVJ）代表理事就任（現任）。
1978年東京大学法学部、1980年最高裁判所司法研修所、2007年早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士各卒。
1980年～1994年弁護士、1994年株式会社井上ビジネスコンサルタンツを設立、代表取締役就任。主に経営戦略、M&A、新規事業創業等のアドバイザリー業務を務め現在に至る。
2005年～2020年東北楽天ゴールデンイーグルス・オーナー代行、2008年～2012年及び2019年にパ・リーグ理事長も務める。
CVJは、2014年に文化芸術国日本の実現に向け活動を開始。日本の文化芸術分野のクリエイティブ、産業、行政、学術のメンバーが集うプラットフォームとして、様々な文化芸術分野での価値共創事業や文化経済戦略事業を行ってきている。
現在、日本スポーツ産業学会理事長、新経済連盟幹事、株式会社楽天野球団取締役、株式会社美術出版社取締役会長、早稲田大学ビジネススクール客員教授なども務めている。

岩渕　貞哉　いわぶち　ていや

「美術手帖」総編集長

「美術手帖」総編集長。1975年横浜市生まれ。1999年慶応義塾大学経済学部卒業。2008年に編集長となり、2019年より現職。ウェブ版「美術手帖」やアートECサイト「OIL by 美術手帖」を立ち上げる。また、公募展の審査員やトークイベントの出演など、幅広い場面でアートシーンに関わる。

岩渕　匡敦　いわぶち　まさのぶ

ボストン コンサルティング グループ
Managing Director & Partner、
マーケティング・営業・プライシンググループ 日本リーダー

ソフトバンク、複数の外資系テックベンチャー企業のマネジメントを経験後、Deloitteのデジタル戦略プラクティス責任者、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て2019年にBCGに入社。Digital BCGの共同統括を経て2022年よりマーケティング・営業・プライシンググループ 日本リーダーとなる。
ハイテク・メディア・通信、自動車、官公庁のデジタル戦略・トランスフォーメーション、先端技術を用いたイノベーション創出、マーケティング、成長戦略を得意とする。欧州、米州、アジアを含む20か国を超えるグローバルプロジェクトを経験。

近年は総合広告代理店、映像制作企業、インテーネットメディアなどクリエイティブ産業のコンサルティングを多数実施し、デザイン経営、アートマネジメントの領域など経営と創造性が交差する領域での実績を蓄積。また自身が音楽家、アート関連事業の経験を有する。

ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス・レビュー「日本企業が「実験する組織」に変わる方法」、「BCGが読む 経営の論点2020/2021」、「ベルガンティ教授に聞く:意味のイノベーションと新時代のリーダーシップ」寄稿、ニール・ヒンディ氏とスペイン大使館で「Art x Design x Business」公演などの活動を実施。

逢坂　恵理子　おおさか　えりこ

撮影：石内都

独立行政法人国立美術館　理事長
国立新美術館長

東京都生まれ
学習院大学文学部哲学科卒業　専攻芸術学
国際交流基金、ICA名古屋を経て、1994年より水戸芸術館現代美術センター主任学芸員、1997年より2006年まで同センター芸術監督。2007年より2009年1月まで森美術館　アーティスティック・ディレクター。2009年4月より2020年3月まで横浜美術館館長。2019年10月より国立新美術館長に就任。2021年7月より独立行政法人国立美術館 理事長を兼任。

また、1999年第3回アジア・パシフィック・トリエンナーレで日本部門コ・キュレーター、2001年第49回ヴェニス・ビエンナーレで日本館コミッショナー、2011年第4回から2020年第7回の横浜トリエンナーレにおいて、総合ディレクター、横浜トリエンナーレ組織委員会委員長等を務める。第69回（2020年度）横浜文化賞を受賞。2021年より一般社団法人全国美術館会議理事・副会長。

太下　義之　　おおした　よしゆき

同志社大学　経済学部教授

文化政策研究者、博士（芸術学）。同志社大学教授、国際日本文化研究センター客員教授、独立行政法人日本芸術文化振興会「日本博」アドバイザー、公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）評議員。文化経済学会＜日本＞理事、文化政策学会理事、政策分析ネットワーク共同副代表、デジタルアーカイブ学会評議員。文化庁文化政策部会食文化ワーキンググループ座長（2021年度）、文化庁博物館部会委員。大阪府・2025年万博アカデミック・アンバサダー、オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会副委員長、あいちトリエンナーレのあり方検討委員会委員（2019年度）、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー。東京文化資源会議幹事、著作権保護期間の延長問題を考えるフォーラム発起人、など文化政策関連の委員を多数兼務。単著『アーツカウンシル』（水曜社）。

岡田　猛　おかだ　たけし

東京大学大学院教育学研究科　教授

米国カーネギーメロン大学博士課程修了。Ph.D. in Psychology. 専門は認知科学・心理学。創造性の心理学，特に芸術創造プロセス，芸術家の熟達化のプロセス，芸術のインフォーマル学習の研究に携わる。東京大学芸術創造連携研究機構・副機構長。最近の主な編著に，K. Knutson, T. Okada, & K. Crowley (Eds.) (2020). Multidisciplinary approaches to art learning and creativity: Fostering artistic exploration in formal and informal settings, Routledge. および K. Komatsu, K. Takagi, H. Ishiguro, & T. Okada, (Eds.) (2022). Arts-based methods in education research in Japan. Brill 等。

小川　絵美子　おがわ えみこ

Ars Electronica
Head of Prix Ars Electronica

小川絵美子はオーストリア・リンツをベースにする日本のキューレータ・アーティスト。オーストリア・リンツにある世界的文化機関アルスエレクトロニカによってオーガナイズされる世界で最も歴史あるメディア・アートのコンペティションであるプリ・アルスエレクトロニカのヘッドを2013年より務める。2008年に新アルスエレクトロニカ・センターの立ち上げに関わり、以降アルスエレクトロニカ・センター・フェスティバル・エキスポートのキュレーションも手掛ける。またアート・技術・社会、そこに交錯する人間性を議論するアルスエレクトロニカのArt Thinking教育にも従事する。

小川　秀明　おがわ　ひであき

Credit: vog.photo

Director - Ars Electronica Futurelab,
Director - Sapporo International Art Festival

2007年からオーストリア・リンツ市を拠点に活動。アートとテクノロジーの文化機関として知られるアルスエレクトロニカにて、アーティスト、キュレーター、リサーチャーとして活躍。現在は、同機関の研究開発部門であるアルスエレクトロニカ・フューチャーラボの共同代表を務める。アートを触媒に、未来をプロトタイプするイノベーションプロジェクトや、市民参加型コミュニティーの創造、次世代の文化・教育プログラムの実践など、領域横断型の国際プロジェクトを数多く手掛けている。2024年に行われる札幌国際芸術祭のディレクターも務める。

片岡　真実　　かたおか　まみ

写真：伊藤彰紀

森美術館 館長
CIMAM（国際美術館会議）会長

ニッセイ基礎研究所都市開発部、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館。2020年より現職。2007～2009年はヘイワード・ギャラリー（ロンドン）にて、インターナショナル・キュレーターを兼務。第9回光州ビエンナーレ（2012年）共同芸術監督、第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督（2018年）。2022年夏開幕の国際芸術祭「あいち2022」で芸術監督を務める。

河島　伸子　　かわしま　のぶこ

同志社大学　教授

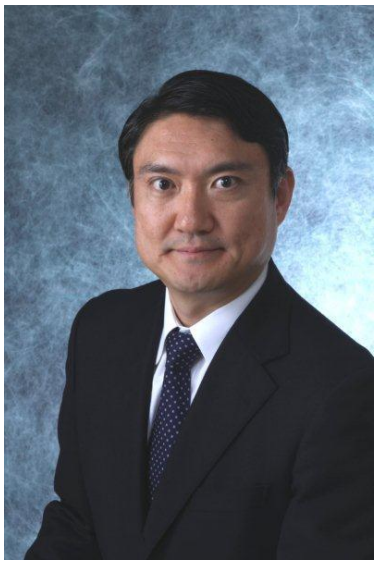
PhD（文化政策学、英国ウォーリック大学）。専門は文化経済学、文化政策論、アートマネジメント論、コンテンツ産業論など。著書に「コンテンツ産業論第２版」、共著に「新時代のミュージアム」「変貌する日本のコンテンツ産業」「イギリス映画と文化政策」「グローバル化する文化政策」「文化政策学」「アーツマネジメント」、Film Policy in a Globalised Cultural Economy (with John Hill [eds], Routledge, 2017)、Asian Cultural Flows (with Hye-Kyung Lee [eds], Springer, 2018)など。文化審議会委員、同文化政策部会部会長、同文化経済部会委員などを務める。元企業メセナ協議会理事。

川畑　秀明　かわばた　ひであき

慶應義塾大学文学部　教授

2001年九州大学大学院人間環境学研究科博士課程修了。博士（人間環境学）。2001年ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ神経生物学研究室研究員（その後客員研究員），2002年より鹿児島大学教育学部専任講師（2004年より助教授，2007年准教授），2009年より慶應義塾大学文学部准教授。2018年より同教授。2017年10月より日本学術会議連携会員を務める。主な著書に『脳は美をどう感じるか―アートの脳科学』（2012年，ちくま新書），『美感―感と知の統合』（共著，2018年，勁草書房），など。研究領域は感性科学，認知神経科学。特に，美を感じる心と脳の働きや，アートを鑑賞する行動や認知のメカニズムに関する基礎研究に従事している。最近では，対話型美術鑑賞やアートに美を感じることの痛みやストレス，レジリエンス等への影響など，「アートの効用」についてその背後にあるメカニズムや社会実装等への展開に興味を持ち研究を進めつつある。また，研究室のホームページは，https://kawabatalab.com/

川村　喜久　　かわむら　よしひさ



DIC株式会社　取締役　兼　DIC
グラフィックス株式会社取締役会長

昭和35年11月　東京都生まれ
昭和59年4月　三井物産株式会社入社
平成3年4月　大日本インキ化学工業株式会社入社
平成6年5月　ニューヨーク大学大学院留学、経営管理修士取得
平成19年6月　同社 取締役 経営企画部長
平成20年4月　DIC株式会社(大日本インキ化学工業より社名変更)
同社 取締役常務執行役員　印刷材料事業部門長
平成24年4月　同社　取締役常務執行役員
Chairman, Sun Chemical Corporation/
Sun Chemical Group Cooperatief U.A. (USA)
平成26年1月　同社　取締役　兼　DICグラフィックス株式会社取締役会長
富士機械工業㈱　社外取締役

美術関係加盟団体：川村文化芸術振興財団理事長・大林財団評議員・小田原文化財団理事・吉野石膏美術振興財団評議員・福井県文化振興事業団理事・東京ビエンナーレ市民委員会特別委員・Asia Society Japan Center Art Committee

北川　フラム　　きたがわ　ふらむ

撮影：山本マオ

株式会社アートフロントギャラリー
代表取締役会長

1946年新潟県高田市（現上越市）生まれ。東京芸術大学美術学部卒業。アートフロントギャラリー代表。主なプロデュースとして、ガウディブームの下地をつくった「アントニオ・ガウディ展」（1978-79）、全国80校で開催された「子どものための版画展」（1980-82）、全国194ヶ所38万人を動員し、アパルトヘイトに反対する動きを草の根的に展開した「アパルトヘイト否！国際美術展」（1988-90）、米軍基地跡地を文化の街に変えた「ファーレ立川アートプロジェクト」（1994）等。地域づくりの実践として、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」（2000～）、「瀬戸内国際芸術祭」（2010～）、「いちはらアート×ミックス」（2014,2021）、「北アルプス国際芸術祭」（2017,2011）、「奥能登国際芸術祭」（2017,2011）で総合ディレクターをつとめる。フランス、ポーランド、オーストラリアから勲章を受勲。2017年度朝日賞、2018年度文化功労者。2019年度イーハトーブ賞他を受賞　詳細は、https://www.artfront.co.jp/jp/fram-kitagawa/参照。

熊倉　純子　　くまくら　すみこ

教授
東京藝術大学 音楽学部音楽環境創造科
大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻

パリ第十大学卒、慶應義塾大学大学院修了。企業メセナ協議会を経て、東京藝術大学教授。専門はアートマネジメント・文化政策。「取手アートプロジェクト」や「アートアクセスあだち音まち千住の縁」など地域型アートプロジェクトに携わりながら、 アートと市民社会の関係を模索し、文化政策を提案している。文化庁文化審議会文化政策部会委員などを歴任。監修書に『アートプロジェクト ― 芸術と共創する社会』など。

小松　隼也　こまつ　じゅんや

三村小松山縣法律事務所　代表弁護士

1986年 長野県生まれ
2008年 同志社大学法学部卒業
2009年 長島・大野・常松法律事務所入所
2015年 Fordham University school of Law（LLM）卒業
2019年 三村小松山縣法律事務所 設立 代表弁護士

<主な委員等>
〇美術関係 一般社団法人 現代美術商協会 顧問、一般社団法人 芸術と創造 理事、一般社団法人 文化産業振興協会 理事、一般財団法人セゾン現代美術館 監事、一般社団法人 コンテンポラリーアートプラットフォーム 理事、The National Museum of Women in the Arts 日本委員、文化庁 文化審議会文化経済部会委員
〇その他 一般社団法人CTO協会 監事

小柳　敦子　　こやなぎ　あつこ

撮影:鈴木心

現代美術画廊『ギャラリー小柳』ディレクター
公益財団法人『小田原文化財団』代表理事

1974年『婦人画報社』編集部に入社。その後渡米してコミュニケーションデザインを学ぶ。
帰国して小池一子主宰『Kitchen』にてSEIBU やワコールなど企業の文化事業部の仕事に携わる。1983年、小池一子と共にオルターナティブスペース『佐賀町エキジビットスペース』を立ち上げ、当時若手作家の杉本博司、森村泰昌、大竹伸朗らの個展を開催。1987年『ギャラリー小柳』をオープン。若手企画ギャラリー9軒で『G9』を結成、国内外の旬のアーティストを紹介、現代美術市場の活性化を計る。2001年より15年間BASEL BASEL に参加。2015年より小田原文化財団代表理事に就任。財団の文化施設『江之浦測候所』を拠点に、天体観測や伝統芸能からコンテンポラリーのパフォーマンスまで、文化観光の可能性を探る。

齋藤　精一　　さいとう　せいいち

Photo. Muryo Honma (Rhizomatiks)

パノラマティクス　主宰

1975年 神奈川県生まれ、東京理科大学理工学部建築学科卒。建築デザインをコロンビア大学建築学科（MSAAD）で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。Omnicom Group傘下のrnell Groupにてクリエイティブ職に携わり、2003年の越後妻有アートトリエンナーレでのアーティスト選出を機に帰国。フリーランスのクリエイターとして活躍後、2006年株式会社ライゾマティクス設立（現：株式会社アブストラクトエンジン）、2016年よりRhizomatiks Architectureを主宰。2020年組織変更によりRhizomatiks Architectureは、Panoramatiksと改め、俯瞰的な視点でこれまで繋がらなかった領域を横断し組織や人を繋ぎ、仕組みづくりから考えつくるチームを立ち上げる。現在では行政や企業などの企画や実装アドバイザーも数多く行う。

施井　泰平　　しい　たいへい

スタートバーン株式会社 代表取締役
株式会社アートビート 代表取締役

1977年生まれ。少年期をアメリカで過ごす。東京大学大学院学際情報学府修了。2001年 に多摩美術大学絵画科油画専攻卒業後、美術家として「インターネットの時代のアート」 をテーマに制作、現在もギャラリーや美術館で展示を重ねる。2006年よりスタートバー ンを構想、その後日米で特許を取得。大学院在学中に起業し現在に至る。2020年に株式 会社アートビート代表取締役就任。講演やトークイベントにも多数登壇。

高根　枝里　たかね　えり

撮影：阿部裕介

Tokyo Gendai Fair Director

Eri Takane

TOKYO GENDAIアートフェアのFair Director。

第一線で活躍する世界的なアーティストやコレクター、企業などのアートコンサルタントとして活動しながら、Google Arts & Cultureの日本の担当を4年間担う。「セゾンアートギャラリー（SEZON ART GALLERY）」のアートディレクターを勤めるなど、日本のアートセクターにおいて豊かな経験を有す。Tokyo FMのラジオ番組では、『サステナ＊デイズ』の司会を務めた。約13年在住していたニューヨークでは、国際交流基金（Japan Foundation）に勤務し、アメリカにおけるアート関連の非営利団体への資金提供に貢献した。

New York University 大学院Visial Arts Administration学科卒業。

高橋　克周　たかはし　かつのり

株式会社三井住友銀行
プライベートバンキング本部 理事 本部長

1965年 神奈川県生まれ
1989年 東京大学法学部卒
　　住友銀行（現三井住友銀行） 入行
1993年 ボストン大学法科大学院卒
2011年　三井住友銀行シンガポール支店　副支店長
2016年　同　プライベートバンキング企画室長
2017年　同　ソウル支店長
2019年　同　法人戦略部長
2020年　三井住友フィナンシャルグループ　理事
　　ウェルスマネジメント本部副本部長
2021年　三井住友銀行　理事　プライベートバンキング営業部長
2022年　同　理事　プライベートバンキング本部長　（現任）

＜主な委員等＞
〇美術関係　2022年経済同友会　アートラウンドテーブル東京2022
　　パネリスト

武田　菜種　　たけだ　なたね

plugin + 代表
Art Basel VIP レプレゼンタティブ日本
東京アートウィーク東京 VIPリレーションズ

大妻女子短期大学国文科卒業。2002年NYへ移住。2005年〈The New School University〉卒業。在学中イタリア人キュレーター、Ombretta Agroのアシスタントをつとめ、卒業後、イタリア系の現代アートギャラリー〈Esso Gallery〉（2009年年閉業）にアシスタントディレクターとして４年間勤務。ギャラリー内外で日本人の若手作家を紹介したり、音楽関連イベントなどの運営サポートなど幅広く活動。リーマンショック後の2009年、日本に拠点を移す。2010年、アート関連のコーディネーション・コンサルティング業務を軸とした〈plugin +〉を立ち上げ、海外と日本のアートシーンの架け橋的活動、アートコンサルティング業務などに従事。2012年より〈Art Basel〉VIPレプレゼンタティブ日本、2021年より〈アートウィーク東京〉のVIPリレーションズを兼任。

中村　政人　　なかむら　まさと

アーティスト
東京藝術大学絵画科教授

1963年秋田県大館市生まれ。アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。「アート×コミュニティ×産業」の新たな繋がりを生み出すアートプロジェクトを進める社会派アーティスト。2001年第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ、日本館に出品。マクドナルド社のCIを使ったインスタレーション作品が世界的注目を集める。1993年「The Ginburart」（銀座）1994年の「新宿少年アート」（歌舞伎町）でのゲリラ型ストリートアート展。1997年からアーティストイニシアティブコマンドNを主宰。秋葉原電気街を舞台に行なわれた国際ビデオアート展「秋葉原ＴＶ」（1999~2000）「ヒミング」（富山県氷見市）、「ゼロダテ」（秋田県大館市）など、地域コミュニティの新しい場をつくり出すアートプロジェクトを多数展開。アーティストイニシアティブ コマンドN(1997~)とアーツ千代田3331 (2010~) の活動において10カ所の拠点、740本のアートプロジェクト、3100本のイベントをつくり、2,000名のアーティストと協働、延べ180名のコアスタッフ、約1350名のスタッフ等と協働する。現在、その多くの表現活動から東京の文化芸術資源を開拓する国際芸芸術祭「東京ビエンナーレ」に挑戦している。

南條　史生　なんじょう　ふみお

森美術館特別顧問
エヌ・アンド・エー株式会社
代表取締役

1949年東京生まれ。1972年慶應義塾大学経済学部、1977年文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。1978-86年国際交流基金職員を経て1986-90年ＩＣＡナゴヤディレクター。1990年ナンジョウアンドアソシエイツ㈱（現エヌ・アンド・エー㈱）設立。2002年森美術館開設に副館長として参画。2006年11月-2019年同館館長、2020年より特別顧問。国際的な芸術祭経験として、ヴェニスビエンナーレ日本館（1997年）、台北ビエンナーレ（1998年）、横浜トリエンナーレ（2001年）、シンガポールビエンナーレ(2006年/2008年)、茨城県北芸術祭（2016年）、ホノルルビエンナーレ（2017年）、北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs（2021年)等のディレクターを歴任。アートコンサルタント業務として、国内外のパブリックアートのコーディネーション、十和田市現代美術館、弘前れんが倉庫美術館の監修およびディレクション等を担当。著書として『アートを生きる』（2012年、角川書店）等。

野村　理朗　　のむら　みちお

京都大学 大学院教育学研究科
准教授

博士（学術）。日本学術振興会特別研究員PD、広島大学准教授、米国ノースウェスタン大学上席客員研究員等、2010年より京都大学大学院教育学研究科。2020年に京都テキストラボ（株）を設立・同社取締役に就任。Scientific Report, Molecular Psychology等をはじめとする国際学術雑誌の主幹編集員、日本神経精神薬理学会評議員等を歴任する。著書に『なぜアヒル口に惹かれるのか？』（角川新書、2010）『脳の報酬系』（丸善出版、2019）『「無心」の心理学』（身心変容技法研究、2019）など。
新しい価値や世界観、意味の創造を通じた社会への貢献を目指している。そのために心理実験やオンライン調査等により人間心理を描き、基底にある本性を生理指標から探りつつ、研究テーマは共感や創造性、身体性、ICT技術、東洋思想等を有機的に組み合わせることにより、「伝統－先端技術」と「脳－身体技法」の象限からなる新しい研究スキームの構築に注力している。

服部　今日子　はっとり　きょうこ

PHILLIPS オークショニアズ　日本代表

東京大学経済学部を卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーにコンサルタントとして4年間勤務。その後、不動産デベロッパー、不動産投資ファンドに従事し、ヘッドハンターを経由して、2016年に英国老舗オークション会社フィリップスの東京オフィスを立ち上げる。主にコンテンポラリーアートの分野で活動、オークションだけでなくプライベートセールも担当し、フィリップスの日本におけるビジネス全般を統括。

15年前から自身もコレクションを始め、趣味は世界各地のアートフェア、美術館とギャラリー巡り。

社団法人雅藝日本文化協会　理事

福武　英明　ふくたけ　ひであき

株式会社ベネッセホールディングス　取締役
公益財団法人福武財団　代表理事（副理事長）

株式会社キーエンス、株式会社エス・エム・エスを経て、ニュージーランドにてefu Investment Ltdの設立。Kings Plant Barn、Consult Recruitment、Hulbert House等、複数の企業を現地で経営。2020年Still Ltdを創業し、様々な事業やイニシアティブを通して、世代を超えて残る新しい文化を興す活動に取り組む。また福武財団の代表理事として、直島を中心に瀬戸内海の島々において現代アートや建築、デザインを通したコミュニティ創りや芸術文化活動を展開中。

真鍋　大度　　まなべ　だいと

Photographer: Akinori Ito

アーティスト、プログラマ、DJ

2006年Rhizomatiks 設立。
身近な現象や素材を異なる目線で捉え直し、組み合わせることで作品を制作。高解像度、高臨場感といったリッチな表現を目指すのでなく、注意深く観察することにより発見できる現象、身体、プログラミング、コンピュータそのものが持つ本質的な面白さや、アナログとデジタル、リアルとバーチャルの関係性、境界線に着目し、様々な領域で活動している。

水野　祐　　みずの　たすく

弁護士（シティライツ法律事務所）

弁護士（シティライツ法律事務所）。九州大学GIC客員教授。Creative Commons Japan理事。Arts and Law理事。慶應義塾大学SFC非常勤講師。note株式会社などの社外役員。グッドデザイン賞審査員。テック、クリエイティブ、都市・地域活性化分野のスタートアップから大企業、公的機関まで、新規事業、経営戦略等に関するハンズオンのリーガルサービスを提供している。著作に『法のデザイン －創造性とイノベーションは法によって加速する』、共著に『オープンデザイン参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」』など。

山本　菜々子　　やまもと　ななこ

SCÈNE Owner, Director

2016年10月招待制アートサロンとしてSCÈNEを設立。国内外から丁寧にキュレーションされた作家の展覧会を開催する他、ホテル・飲食店・オフィス・パブリックスペース・個人邸等のさまざまな空間のアートキュレーション、ワインラベルや化粧品等のアートコラボレーションも手がける。
近年ではインテリア、空間デザインも手がけ、様々な場面でアートのある空間づくりに邁進している。

山本　豊津　　やまもと　ほづ

株式会社東京画廊 代表取締役社長

日本初の現代美術企画画廊「東京画廊」の創始者である山本孝の長男として1948東京に生まれる。
武蔵野美術大学造型学部建築科卒業後、衆議院議員村山達雄氏の秘書を経て、1981年より東京画廊に参画、2000年より代表を務める。世界のアートフェアへの参加や、展覧会や都市計画のコンサルティングも務める傍ら、日本の古典的表現の発掘・再発見や銀座の街づくり等、多くのプロジェクトを積極的に手がけ、また若手アーティストの育成や大学・セミナー・講演等、アート活性の為に幅広い領域で活動。
2014年より４年連続アートバーゼル（香港）、2015年からはアートバーゼル（スイス）にも出展。全銀座会催事委員会委員。日本現代美術商協会（CADAN）理事。アートフェア東京アドバイザー。武蔵野美術大学芸術文化学科特別講師。
著書に「アートは資本主義の行方を予言する」(PHP新書)、「コレクションと資本主義」（角川新書）

特別顧問

福武　總一郎　ふくたけ　そういちろう

株式会社ベネッセホールディングス 名誉顧問
公益財団法人福武財団 理事長
瀬戸内国際芸術祭　総合プロデューサー
大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ　総合プロデューサー

1945年岡山県生まれ。1986年（株）福武書店（現・（株）ベネッセホールディングス）代表取締役社長。2016年10月より現職。基幹事業の教育で模試事業、国内外での通信教育事業、英語技能検定事業（GTEC）、塾事業へと事業を拡大させる一方で、2000年介護事業運営会社設立（（現・（株）ベネッセスタイルケア）、2001年米国の語学事業会社の買収（現・Berlitz Corporation、2022年売却）等、事業全体の多角化を推し進めてきた。

また、香川県・直島、豊島、岡山県・犬島を自然とアートで活性化するプロジェクト（ベネッセアートサイト直島、以下BASN）を30年以上に亘って指揮。2004年直島に地中美術館を開館、直島町名誉町民受賞。2008年 文部科学大臣表彰（芸術選奨）、2009年 国土交通大臣表彰（観光関係功労者）、2010年 観光庁長官賞、2012年 モンブラン国際文化賞、2013年 文部科学大臣表彰(地域文化功労者表彰)など多数受賞。BASNとしても2010年 日本建築学会文化賞、2011年 日本建築大賞 、2018年 文化庁創立50周年記念表彰などを受賞。2018年4月 中国「山東省アートによる農村再生首席顧問」証書授与。New Zealand在住。